



Roost

私サイズの、すてきな暮らし

*Designing
Lifestyle*

暮らしは自由に
デザインできる

満たす住まい 叶える暮らし
5つのルームストーリー
恋する部屋の作り方
一部屋づくりプロジェクト

INTERVIEW

心地よさを生むデザイン
大事なのは“いい感じ”の関係性
デザイナー 太刀川英輔

捨てる 生まれる 捨てる
清川あさみ
in the room

Special

“恋する部屋”
に住んでみる?

Midnight Cafe



ROOM 3

「好き」に囲まれる 自分だけの趣味時間

柔らかな暖色の光と、アンビエントな音楽に包まれたワンルーム。キッチンのカウンターに腰掛け、ゆっくり絵筆を繰る——。ウェブ広告のマーケティングという仕事柄、終電で帰宅することも多いという羽田裕明さん。パソコンと向き合う日中から解放された深夜、眠りに就くまでの間は、好きなものにじっくりとひたる濃厚な趣味時間。リノベーションカフェのような、どこか落ち着く空間には、ありのままの自分が詰まっている。



羽田裕明さん
<http://chemical-bridge.jp>

取材協力
リズム株式会社 <http://www.re-ism.jp/>
ヴィレッジ不動産 <http://vv-realestate.com/>





「絵を描くなんて20年ぶりくらい。でも、一度描き始めると平気で3、4時間たってしまうこともあります」と話す羽田さん。創作好きの友人たちとのグループ展に向けて描きためているそう。床や壁面には、額縁に入った作品たちが静かにたたずんでいる。周りには、アンティークの木箱や椅子。趣味でもある古道具屋巡りをする中で見つけたものだという。この部屋に暮らすのも、リノベーションによる使い込まれたような風合いが気に入ったからだとか。

絵の具やパレットでいっぱいになったキッチンカウンターは、DJブースになることもあれば、バーやコーヒーカウンターになることも。お酒のボトルが友人手づくりのボックスライトにぼんやり照らされて、なんともおしゃれな雰囲気。間接照明とキャンドルの灯りが好きなんです。天井のライトも、ずっと一つ切れたままなんですよ」と笑いながら、絵筆を休めてコーヒーを入れ

てくれた。トボボボ……という音とともに、コーヒーの香りがふわっと舞い上がる。少し暗めの光の中になると、時間がずいぶんゆっくりと進んでいるような感覚になる。

「この雰囲気が落ち着くのか、ぼーっとしながら長居していく人が多いですね」

「形の残るものが好き」という羽田さん。その言葉通り、たくさんの本やCDがインテリアの一部になっていて、その数は増えるばかりだとか。手づくりのアートや、旅先で撮った写真のパネル、海外旅行のお土産、思い出の色紙……愛着あるものたちの放つ温かみが、どこにもない居心地のよさにつながっている。

「好き」と暮らす、ありのままの自分がにじむ部屋。今は絵を描く時間が多いものの、最近購入した自転車でもっと出掛けたいと思っているそう。季節が変わったら、また新しい何かがこの部屋の、住人になっていくかもしれない。

ROOM 3 MIDNIGHT CAFE



Data
場所：東京都世田谷区大原
間取り：13畳建て3階 1R
専有面積：30.44㎡
家賃：11万6000円
築年数：12年



部屋のすぐ外は、交通量の多い幹線道路。そんな喧騒から切り離された、静かな雰囲気が満ちる。



上右／壁に飾られた自作の絵。額縁に収まって、インテリアの中に溶け込んでいる。下右／慣れた手付きでコーヒーをひく羽田さん。訪れた友人にふるまうことも多いとか。左上／ベッド脇の本棚スペースはお気に入りの場所。下左／間接照明の暖かな灯りは「少し暗い感じがちょうどいい」と言う。友人がつくったおしゃれなライトがカウンターや足下に置かれていた。